



十日町 Tokamachi

市議会だより

市民と議会の
ネットワーク

平成22年10月25日発行

■発行 十日町市議会 十日町市千歳町3丁目3番地 TEL.025-757-3111 FAX.025-757-5999
E-mail: t-gikai@city.tokamachi.lg.jp TEL.025-757-3119 (直通)

■編集 議会だより編集委員会

No.24

- ◆一般質問14人 — 雇用と経済振興策 —
- ◆平成21年度決算審査 — 委員長報告 —
- ◆会派通信 ⑥ — 日本共産党十日町市議団 —



君よ熱きロマンの風となれ

第20回 24時間耐久リレーマラソン

Contents

今号の内容

- ▶ 一般質問 2～6
- ▶ 決算審査報告 7
- ▶ 補正予算・主な事業 8
- ▶ 常任委員会審査結果 8
- ▶ 会派通信／議決結果 9
- ▶ 議会日誌 10
- ▶ 議会レポート 10



第12回信濃川水なしサミット ラフティングボート川下り

9月定例会 一般質問



9月9日、9月定例会が招集され、9月24日までの16日間にわたり開催されました。

物品契約の締結、辺地総合整備計画の変更、字の変更、市道の認定、平成22年度一般会計と、6つの特別会計及び水道事業会計の補正予算、さらに平成21年度会計決算認定などが提案、審議されました。

一般質問では、14人の議員から市政についての質問がありました。

(一般質問については、紙面の都合上要旨を掲載しています。)

キナレ改修と市職員採用について

庭野茂美 議員

質問1 近年多くの外国人観光客が我が国を訪れ、特に中国からの観光客が激増している。外国人観光客の誘客について何う。

答弁1 具体的な取組として、観光協会のホームページの英語、中国語、韓国語対応、宿泊施設向け外国人対応マニュアルと指しし会話集の作成、韓国メディアとの意見交換会参加や香港ブローカー招聘等受入を行いました。

た。今後は中国語と英語併記による観光パンフや中国語DVDを作成しPRしていきます。

質問2 3〜4億円かかるというわれているクロス101階とキナレの改修計画について、市民・議会・現場の意見をよく聞いて慎重に進めるよう求める。

答弁2 交流や観光をはじめとして多くの面で中核となる施設ですので、今後の進め方については、12月議会の提案までに市議会の皆さん、また市民の皆さんとしっかりと検討する中で進め、第5回大地の芸術祭に間に合わせたいと考えています。



キナレとクロス101

質問3 関口市政になり市職員の新規採用が見送られているが、地元に戻りこの地で働きたいと願う若者は多い。市職員の新規採用再開を強く願う。

答弁3 類似団体との比較や定員適正化計画を基に、市にふさわしい職員数を見極め、一刻も早く適正化を図った上で必要な職員数を確保していきたいと考えています。しかしながら市が雇用者として果たす役割も重要です。大卒者は特に厳しい就職難の中にある昨今、来春卒業見込みを含む大卒者を対象に、賃金面に配慮した臨時職員の採用を検討しています。

地域経済の

振興策について

飯塚茂夫 議員

質問1 地域経済の現状認識について。

答弁1 全国的には一昨年から若干の回復傾向が見られていますが、依然として厳しい状況に変わりはなく、今後も地域の頑張る企業を応援する施策を展開し、全体の底上げを図っていきたいと考えています。

質問2 米価下落の対策についてどのように考えているか。

答弁2 販売力を強化するための区分集荷、そして品質の地域差、個人差をなくして、高位均一化を図り、基準未満生産者には個別指導を実施し品質向上を目指します。

質問3 農業の6次産業化にはどのような施策を考えているか。

答弁3 農家の手取りを大きく確保するやり方が必要であり、生産者にも一工夫いただくことが大事です。今までの既存の形態から離れたところに組織を置き、生産者の収入アップのために市としても頑張っていきたいと考えています。

質問4 新たな企業誘致について

ではどのように考えているのか。

答弁4 企業誘致活動継続とともに、新規事業等チャレンジャーへの積極的な応援、新アイデアを生かしたビジネスの発掘や育成等による地域発信型の産業育成にも取り組んでいきます。

質問5 観光による交流人口増大と経済波及効果について。

答弁5 旅館、商店、ガソリンスタンドや食堂など、市民みんなが観光名所やお食事処、お土産品などを教えたり紹介できる地域挙げてのおもてなしの機運を高めていく取組を行っていきたいと考えています。

地籍調査と住居表示 子育て支援について

宮沢幸子 議員

質問1 地籍調査は市が将来へ向けて発展していくための基礎であり、今年度から15年計画で市街地の調査が実施されます。

紛らわしい住所の解消を図るため町界町名整理事業も併せて実施されますが、①地籍調査の市全体計画と②地籍調査完了地域の住所表示への対応を何う。

答弁1 ①まずは十日町地域の市街地に鋭意取り組み、国県か

らの補助金の動向も踏まえ、その他の未完了地を順次実施していく予定です。②一つの大字に複数の行政区があるような場合には、かなりの困難を伴いますので、地域の総意により、個別に対応を検討したいと思っています。



市立保育園の視察

現在、十日町市保育料統一化及び保育園民営化計画策定委員会に審議をいただいております。11月までに提言書をいただく予定です。

質問3 子育て支援センター「くるる」は利用者も多く好評ですが、正職員の責任者不在です。対応を伺う。

答弁3 対応している3名の臨時職員とも保育士の資格を有しており、意欲も高く、経験も豊富であり適切な指導を行ってもらえるものと期待しています。正職員の常駐が理想ですが、職員数が不足している現状においては難しい状況です。

資源の売り込みで 怒濤の人の流れの拡大を

小野嶋哲雄 議員

質問1 地域間競争の激化の昨今、生き残り、怒濤の人の流れを呼び起こし、地域の活性化と市民の生活基盤の安定を図るためには、地域資源の情報をいかに早く、いかに多くの人に伝え、いかに多くの経済活動を誘発できるかで明暗を分けます。

①都市交流の今後の取組②資源情報の圏域外への発信の取組

③十日町市のブランドランキン
グ、名産品ランキングアップ対
策と④選任専門スタッフの配置
と積極的予算配分についての考
えはいかに。

答弁1 ①現在の交流都市でのイベントにおける物産販売や観光PR、また相互訪問交流を通じて、市の観光資源や物産の売り込みに一層努めていきます。

②様々な情報媒体を使って、観光情報や地域の魅力を強力にアピールするとともに、市外の人たちから、まず十日町を知っていただくよう、興味や関心を得られる発信を進めていきます。

③昨年から地域力創造アドバイザー事業を継続しています。また、市内事業所を対象としたデザインセミナーの開催も予定しており、今後も行政はもとより、市民一丸となった十日町市のファン拡大のための施策を展開していきます。

④特定の職員ということではなく、すべての事業担当者が目的に沿って、目的意識をしっかりと自覚し、業務を行うように徹底していきます。この目的意識の向上により、いろいろな発想が生まれ、あわせて戦略的な情報やデータを共有化し、発信力を高めていきたいと考えています。

米価下落の影響と 十日町市農業

村山邦一 議員

質問1 収穫の喜びが生産者も消費者も実感される時。しかしながら、コメを作れどメシ食えぬと農家の悲鳴が、そして1俵1万円を切る市場価格が報道されている。JA十日町22年度仮渡金は、昨年より1俵2,200円のマイナスで16,500円と決定された。予約数からいくと約4億円減となる。

①市長はどのように認識しているのか。②国は、食料・農業・農村基本計画を示した。自給率向上、戸別所得補償制度、6次産業化がポイントと思うが、市総合計画、農業の基本構想にどのように対応していくのか。

答弁1 ①22年度産米の魚沼コシヒカリの仮渡金引き下げは、産地である当地域において非常に厳しいものと認識しています。今回の引き下げは生産者の収入減少を招き、少なからずとも生産者の農業経営にも影響が出るものと懸念しています。来年に向けて、国の動向を注視しながら、農業支援策をしっかりと検討していきたいと考えています。

新年度予算編成・ 介護施設・雇用対策

仲嶋英雄 議員

市としても、農業が職業として選択し得る魅力とやりがいのあるものになるよう、営農体制の確立を総合計画や基本的構想に掲げ推進していきます。

質問1 国の借金は900兆円を突破し更に円高ですが、バブル崩壊後、相次いで実施した経済対策のために、国債の大量発行、国の予算も10%減と言われています。当市においても医療介護等ほとんどん支出が増加予想されますが、新年度予算編成、合併特例債の返済はどのように、国などへの依存財源が6割を超

行政改革大綱策定への 思いは何か

遠田 延雄 議員

える当市の財政構造からは、国の動向が市の新年度予算編成に大きな影響を与えることは確かです。現段階では具体的影響が判断しにくい情勢であり、当面は国の地方財政計画の動きや、市の総合計画後期基本計画の内容等を基本にしながら、予算編成方針を定めることになると考えています。

質問2 廃校その他既設の建物の介護施設への再利用について。

答弁2 利用者の意向を反映し、事業としての条件が満たされているかなどを、整備、運営する介護事業者から総合的に判断していただき、さらに地元の意向を確認する必要があります。

質問3 厳しく続く雇用情勢、その現状認識と対策を伺う。

答弁3 ハローワークの十日町管内における常用雇用の有効求人倍率からして、ここ数か月については若干の改善傾向にありますが、産業界では、今後しばらく厳しい状況が続くものと認識しています。今後も企業や関係団体との情報交換を密にし、ニーズをとらえた施策を展開するとともに、国、県等の制度も有効活用しながら、頑張る地元企業を積極的に支援していきたいと思っています。

業見学会や事業所の情報誌発行、また企業誘致活動や工場用地の整備など、今後も有効な手段を検討しながら継続していきます。



企業見学会

新十日町病院建設と 松代病院について

安保 寿隆 議員

質問1 ①県は「急性期に特化した病院」と強調した。現在の十日町病院はどのように変わるのか。②検討会報告書にある、

ベット数275床と現在の医師数27、8人を堅持する必要があるのではないかと。③報告書にある病院建設にあたって市が主体となつてすることとは何か。④看護師養成所や24時間一次応急診療所など、市としての負担も含めたしつかりした方針を持つて、県に要望していくことが重要でないか。

答弁1 ①診療科を増やすとか、より利用しやすい新たな医療体制を構築していくという報告内容です。基本的な部分については変わらなかつたと考えています。②圏域住民の絶対的な信頼感のある病院は、絶対に堅持していく心構えです。医師の確保に懸念のないよう、新潟県に一番の要望としてしつかりと話をしていきたいと思っています。③看護師養成所の誘致、24時間の1次応急診療所併設の検討、救急搬送機能や消防救急の

強化などです。④市、もしくは一部事務組合で対応していく必要があると思います。詳細な部分については、一つ一つ皆さんに示す形で検討し、また議員、市民の皆さんにもその経過を知らせていきたいと思っています。

質問2 松代病院の運営について、住民参加の場と意見を取り入れることが必要ではないかと。

答弁2 住民、特にこの地域、松代、松之山地域の皆さんの意見をしつかり伺う場をつくり、意見をいただいた上で、県に要望していきたいと思っています。

高規格道路・後期基本 計画及び実施計画

川田 一幸 議員

質問1 命の道として病院を建設する事で、十日町インターまでを整備区間にするための手法と認識していたが、病院の位置が現在地と決定された。①その他の手法を持っているのか。②平成16年にインター周辺土地利用計画は変えるのか。

③後期基本計画及び実施計画が策定されているが、事務事業評価の考えを伺う。

答弁1 ①地域高規格道路は、

当圏域の経済発展や市民生活の安全・安心を確保する上で重要な道路であることによりはななく、八箇インターから十日町インター間の整備区間への昇格はもとより、松代インターまでの調査区間への昇格など早期整備に向けて、今後とも国、県をはじめ関係機関に働きかけ着実に進めたいと考えています。②この度の新十日町病院建設場所検討委員会の提言を受け見直しをする必要があります。作業には、地域の関係者はじめ、市民の皆さんからも参加いただき、周辺地域の更なる活性化が図られるものになるように見直します。

職員削減による 住民負担は

鈴木一郎 議員

質問1 ①市職員削減目標は

500人体制で現在642人、あと142人の削減により住民区長等の負担は大きくなるのか。②削減すべきでない課もあると思うが、削減の判断基準は何か伺う。

答弁1 ①市民の皆さんに密着

した窓口サービスを中心に、引き続き安定したサービスができる体制にしたいと考えており、負担が大きく増加することのないよう努めていきます。

②毎年全所属を対象に必要な要員調査を行い、事務事業の状況に応じた職員の適正配置に努めています。今まで以上に事務効率の向上に努め、スリムで且つ実務的な組織体制に改革してまいりたいと考えています。

質問2 十日町病院は現在地に

建設という方向が決定したが、運営母体について、市、議会連名で県に要望した厚生連の取り扱いはどうするのか。白紙に戻したのか。

答弁2 要望書が提出されるにあたっては、厚生連が公的医療

機関であり、新潟県や十日町市に地域医療を担う熱意があるという文書が提出されていたという経緯等もあったものと理解しており、白紙にするという考えは持っていません。新十日町病院は、公設民営になったとしても設置主体は新潟県です。運営主体については、新潟県が県立病院の運営を担うにふさわしい医療機関を主体的に検討されて、責任を持って決められるものと考えており、公募等によって運営主体を選定される際に、厚生連が手を挙げてくださればありがたいと思っています。

小中一貫教育と 清津川の水利権を問う

藤巻 誠 議員

質問1 幼保・小中一貫教育の

取組について、①具体的な内容は、②モデル中学校区指定の考え方は、③教育現場は極めて多忙。意欲的に取り組むには人的、財政的な支援と研修が不可欠。どう対応するのか。

答弁1 ①全中学校区での実施、

現行の6・3制を活用、モデル中学校区の指定、指導区分での小中一貫教育の導入といった内

容の計画を策定中であり、9月末にはまとまります。②指定候補は、教育環境や地域の状況を勘案。モデル中学校区以外でもその実践に学び、26年からの実施に備えていきたいと考えています。

③モデル中学校区への支援や児童生徒交流時の移動手段等の確保、先進地視察や先進的取組を学ぶ学習会などを考えています。

質問2 環境共生基金を活用して高率な補助制度の創設を。

答弁2 必要性、公益性、公平性や協働のまちづくりの観点から、十分検討した上で、現存する制度とのバランスを考慮し取り組んでいきます。



現地視察（三俣取水口）

質問3 東京電力湯沢発電所の水利使用許可について、①来年

1月からの水利使用許可の対応。②国、県、東京電力に積極的な働きかけが必要。どう取り組むのか伺う。

答弁3 ①今後の様々な動きが

予想されるので、それを注視しつつ、清津川の水量が増量し、環境改善につながるよう取り組んでいきたいと考えています。

②東京電力が決定を尊重するとしている清津川・魚野川流域水環境検討協議会の事務局である新潟県のご英断を積極的に働きかけていきたいと思っています。

冬期スポーツ振興と 施設管理の在り方

近藤紀夫 議員

質問1 委託料を含むスキー場への出資状況について

答弁1 スキー場指定管理委託とリフト管理委託を合わせて、松之山スキー場は3,270万円、松代ファミリースキー場は2,050万円、なかさと清津スキー場は運営費補助金として945万円、吉田クロスカントリー競技場は施設管理経費約1,300万円、松之山クロスカントリーコースは、管理経費約88万円、松代クロスカントリ

コースは、管理経費として約26万円となっています。地域で運営されている中峰と桂スキー場へは、用地の借地料を負担しています。

質問2 学校教育におけるスキー教育の現状と方針について

答弁2 アルペンとクロスカントリに分かれており、学校によって授業時間や配分は異なります。主体は学校のグラウンドでのクロスカントリスキーであり、学校以外の施設も利用しています。アルペンスキーは、一部の学校を除き、生涯スポーツの一つとしての基礎力を養うため、体験的な授業として1回から3回の授業を行っています。



中峰スキー場でのスキー授業

質問3 中峰スキー場・桂スキー場の在り方と支援策について

答弁3 地域関係者の熱意により地区民自ら開設し、地域の力によって管理運営していただいています。市のスポーツ施設ではなく、関連施設として位置づけており、地元の主体的な運営を尊重しています。今後もスキー場の運営費のような固定的経費についての支援は難しいと考えています。ただし、突発的な経費発生時には、その都度相談に応じたいと思っています。

医療費助成拡大と 要援護世帯の除雪支援

尾身隆一 議員

質問1 市長の公約である、義務教育期間中の中・通院の医療費の完全無料化実施時期について伺う。

答弁1 今後の助成については、来年度通院医療費助成を中学校卒業まで拡大出来るよう検討しています。完全無料化については、無駄を一つ一つ省いていく中で財源をしっかりと確保し、また新潟県の助成動向等も見ながら実施を目指していきたいと考えています。

質問2 国保税の均等割（一人年3万5千円）は、収入の無い

生まれたばかりの赤ちゃんにまで課税するのではなく減免すべきではないか。

答弁2 国保税は軽減制度や申請による減免制度を設けてあります。また、市の国保財政は大変厳しい状況に陥っており、単年度収支が大幅な赤字になっています。国保税については、応能負担、応益負担の原則により、加入者から一定の金額を負担いただくべきものであると考えています。したがって、現状では困難であると考えています。

質問3 要援護世帯除雪支援事業は、市内に子どもがいないことが一つの要件になっていますが、その要件を緩和して対象を拡大すべきではないか。

答弁3 20年度に比べ21年度実績は、件数が92世帯増加、金額にして約2.5倍にも及ぶ実績となり、今後ますます利用者が増えることが予想されることから、認定基準は従来どおりにしたいと考えています。

市内在住の子どもが病気等で支援が困難な場合などは、家庭状況や民生委員からの意見を参考にしながら、総合的に判断して対応させていただいています。

介護問題について

太田祐子 議員

質問1 介護分野の状況は一層のニーズが見込まれているが、給与面等、労働環境の厳しさや高い離職率もあり、人材確保の困難さが深刻な問題となっている。介護従事者・スタッフの充実に向けた具体策について伺う。

答弁1 就学や資格取得の支援等については、今後も更に検討を重ねていきますので、ご理解いただきたいと思います。

質問2 変則勤務者に対応出来る保育時間延長について。

答弁2 市としても、現場保育に対する応援なども検討し、更に私立保育園の皆さんとも話し合いをしていく必要があると思っています。

質問3 中学校、高校における老人福祉への理解を求める教育の充実について。

答弁3 中学校・高校において、社会貢献や自己の力の発揮といった観点からの職業選択の指導をしていただきたいと思います。

質問4 十日町市看護師理学療法士等就学資金貸与条例に、介護福祉士を加える支援拡大について。

答弁4 介護分野においても支援できないか検討するよう指示したいと思います。

質問5 ホームヘルパー2級養成研修の受講機会の拡充と助成制度の創設について。

答弁5 ヘルパー養成研修受講に係る支援などのような形でできるか、5期計画の中で考えていきたいと思っています。

議会傍聴者

9月9日から9月24日までの定例会期間中に、延べ人数で38人の方が傍聴に会場されました。（傍聴者名簿記載分）

議会の傍聴においでください

- 次の議会(12月定例会)は、12月上旬に開会予定です。詳しい日程は議会事務局に照会してください。(☎025-757-3119・市のホームページにも掲載します。)
- 議場は市役所3階です。入口で住所・氏名を記入だけで傍聴できます。

お気軽にお出かけください。

平成21年度決算審査特別委員会に付託されました、議案第101号から議案第110号までの一般会計、特別会計及び水道事業会計までの10件につきまして、9月10日に特別委員会を設置し、更に3つの分科会を設置し詳細に審査をいたしました。10件とも認定であります。

正副主査会議を踏まえた意見、要望事項について何点か申し上げます。



第1分科会での審査

□一般会計 歳入

歳入総額は、406億6,519万8,277円となり、前年対比73億2,689万8,704円の増、率にして22.0%の大幅な増となっています。この主な要因は、政府の緊急経済対策とJRの寄附金によるものであり、税収は、前年比1億6千万円ほど減っており、引き続き地域経済の振興策が強く求められています。

市税の収納率は94.8%と努力はされていますが、収入未済額は、約3億5千7百万円にも上っています。

徴収にあたっては、市民との納税相談を充実させ、親身な対応を望みます。

□一般会計 歳出

◆2款総務費、「地域おこし協力隊」について、それぞれの地域住民との連携を図りながら、魅力ある地域づくりが図れるよう進めていただきたいと思います。

◆3款民生費、要援護世帯除排雪援助事業については、地理的要件や集落の高齢化率などを考慮した要件緩和をお願いしたいと思います。

公立保育所について、保育士は、年々臨時職員が増加しています。正規職員の採用を求めると同時に、施設の老朽化や駐車場不足などの改善を望みます。

◆6款農林水産費、堆肥施設は、魚沼コシヒカリをはじめ、十日町農業の振興にとって大変重要であることから、その建設に当たっては、住民の理解を得るため、一層の努力と情報の開示に努めていただきたいと思います。

◆7款商工費のうち、観光費、大地の芸術祭推進費についてであります。滞在型観光を定着させるため、観光コースなどのメニュー作りに努め、経済波及効果の向上に取り組んでいただきたい。

クロス10、キナーレの改修においては、市民意見を聞き、その理解を得るべく、費用対効果を重視した計画となるよう特段の努力を望みます。また、第3セクターの7法人に対しては、経営状況を十分精査し、経営の安定化が図れるよう出資者として、指導、監督に当たっていただきたい。

◆10款社会教育費、情報館費について、利用者会議などを設置し、図書館機能をより一層充実するよう取り組んでいただきたい。

□議案第102号 十日町市国民健康保険特別会計

国保加入者は所得の少ない方が多く、滞納も依然と多い。一部負担金や資格証の取り扱いなどについて、きめ細かな対応をお願いしたい。また、ジェネリック医薬品の普及、啓発をお願いしたい。

□議案第105号 十日町市後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療制度について、廃止の方向とされていますが、年齢による格差医療は残されることから、制度改正に当たっては、公平な制度に改めていただきたい。

□議案第106号 十日町市介護保険特別会計

包括支援センターについて、数を増やし予防をはじめ介護事業の充実に努めていただきたい。

普通徴収の保険料収納率が悪化している。また、認定を受けた方の未利用者も多数おり、生活状況を把握し負担軽減と持続可能な制度となるよう努力していただきたい。

□議案第107号 簡易水道事業特別会計及び水道事業会計

老朽管の布設替えを進め、有効率を高める努力を望みます。

□議案第109号 松之山温泉配湯事業特別会計

温泉熱の有効利用にも工夫と努力を求めます。

以上申し上げ、決算審査特別委員長報告といたします。



決算審査特別委員長報告

一般会計補正予算と主な事業

9月定例会

いる高齢者福祉施設、地域介護福祉施設の整備事業に補助を行います。

《補正第3号》

この補正予算は、6月の補正予算（第2号）に引き続き、地域経済の活性化対策を中心に計上しました。

そのため、特に、土木・建設関係、企業立地促進関係、老人福祉関係、商工・観光関係に予算を増額し、地域の経済対策の一助にと考えています。

なお、今次の予算補正額は、既定の予算に歳入歳出それぞれ5億9,268万4千円の追加を行いました。

《主な事業》

○コミュニティ活動支援事業（松之山支所地域振興課）

浦田地区民の地域振興活動を支援するため、浦田地区多目的施設整備事業費の増額を行いました。

○老人福祉関係事業（福祉課）

吉田地区、橘地区で実施して

○障がい者就労支援事業（福祉課）

障がい者の就労を支援するために「シルバーポストカード」の作成委託など事業を追加しました。

○感染症予防事業（健康支援課）

10月から国・県が、新型インフルエンザワクチン接種費用について、低所得者を対象に補助を開始します。これに合わせ、市でも必要経費を措置しました。

○商工業振興のための貸付金関係事業（産業振興課）

9月末日で終了する信用保証料の補助制度を本年度末日まで延長する予算を措置しました。また、各種の貸付金については、市内商工業の経営状況から、更にその融資枠の拡大を行いました。

○観光振興事業（観光交流課）

市内の民間事業主体で取り組む「十日町雪ものがたり120事業（当市が世界一の積雪都市であるとして、その記録を広く発信し、より多くの来訪者を誘致し市の活性化を図ろうとする取組）」を支援します。

○企業設置奨励事業（産業振興課）

松之山三省工業団地内に造成中の「きのこ生産施設」の建設に支援を行います。

○大地の芸術祭受入対策事業（観光交流課）

大地の芸術祭の作品看板を全市域に本格設置しました。

○道路橋りょう・消雪パイプ修繕事業（建設課・各支所農林建設課）

市内の広範囲に点在する、道路や消雪施設などの機能低下を解消するため修繕工事費を増額しました。

○住宅管理事業（建設課）

市内の住宅関連産業を中心として地域経済の活性化を図るため、住宅の修繕や増築の工事費を支援する事業を継続しました。

また、谷内丑の市営住宅において大規模修繕工事を行います。

○学校給食関連事業（教育委員会）

給食調理機器や施設設備の更新事業を行います。



○農地農業用施設災害復旧事業（農林課）

六箇田麦地区の地滑り災害が国の補助災害事業となったことによる組み替えと、去る8月6日に発生した豪雨による5か所の災害復旧経費を計上しました。

常任委員会

TOKAMACHI

審査結果

提出された議案のうち、常任委員会に付託され審査した議案と、その結果は次のとおりです。

9月定例会

産業建設常任委員会

◆十日町市中尾辺地総合整備計画の変更

◆市道の認定

いずれも原案どおり可決しました。



市道認定の現地調査

◆日本共産党

十日町市議団

私たちの会派では、市民の声をまっすぐ届けることを基本に「住民の福祉と暮らしを守る」事を、活動の指針として議会活動に取り組んでいます。

その一部をご紹介します。

【予算要望】について
毎年その年度の課題を整理して、要望書としてまとめています。重点項目は市長と懇談、その後各課長と意見交換する形式で行っています。



【先進地視察】について
合併して区域が広くなり課題も広域化しています。

合併した多くの市町村では、「まちづくり」「住民自治」をどう構築していくのか大きな課題として捉え、取組が進められています。当会派では、長い歴史の中で培われてきたそれぞれの地域の良さを生かす「まちづくり」を基本に据えるべきだと考えています。

8月、地域協議会役員の皆さん、企画政策課職員と合同で、越前市・飯田市の取組の様子を視察してきました。



両市に共通しているのは、公民館活動を軸に地域自治センターを併設し、財源を持たせ地域自治を進めていることでした。

また、上越市で開催された「地域自治組織」セミナーでは、全国各地から行政職員や住民の方々、議員の参加が見られ、「地域自治組織づくり」への関心の高さを感じられました。

中でも上越市の地域協議会の委員は公募制が取られ、地域活動資金として総額2億円ほどが配分されていることに関心を持ちました。多くを学ぶことが出来た視察・研修となりました。

【議会報告等】について

議会が開催される都度、打合せ・学習会を開き、チェック機能を果たせるよう努めています。

また、「市議会ニュース」を発行して議会の様子や一般質問の概要をお知らせしています。

また、他市町村の党議員団と力を合わせ国・県への要望活動も行っています。

【日本共産党十日町市議団】



会員

村山 邦一

安 保 寿 隆

尾 身 隆 一

鈴 木 和 雄

9月定例会議決結果

市長提出議案	
件 名	議決結果
物品購入契約の締結（ロータリ除雪車 川西地域）	原案可決
物品購入契約の締結（ロータリ除雪車 松之山地域）	原案可決
十日町市中尾辺地総合整備計画の変更	原案可決
字の変更（北鎧坂、南鎧坂地内）	原案可決
市道の認定（ フタツヤ 三ツ屋3号線・ ヤチウシアカシチョウ 谷内丑明石町2号線・旧国道池尻線・ イゲシリ 小荒戸新田線）	原案可決
平成22年度十日町市一般会計補正予算（第3号）	原案可決
平成22年度十日町市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	原案可決
平成22年度十日町市国民健康保険診療所特別会計補正予算（第2号）	原案可決
平成22年度十日町市老人保健特別会計補正予算(第1号)	原案可決
平成22年度十日町市介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決

平成22年度十日町市簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決
平成22年度十日町市下水道事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決
平成22年度十日町市水道事業会計補正予算（第2号）	原案可決
平成21年度十日町市一般会計歳入歳出決算認定	認 定
平成21年度十日町市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定	認 定
平成21年度十日町市国民健康保険診療所特別会計歳入歳出決算認定	認 定
平成21年度十日町市老人保健特別会計歳入歳出決算認定	認 定
平成21年度十日町市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	認 定
平成21年度十日町市介護保険特別会計歳入歳出決算認定	認 定
平成21年度十日町市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定	認 定
平成21年度十日町市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定	認 定
平成21年度十日町市松之山温泉配湯事業特別会計歳入歳出決算認定	認 定
平成21年度十日町市水道事業会計決算認定	認 定

10日・本会議(決算質疑)
・決算審査特別委員会
13日～15日
・本会議(一般質問)

〔7月〕

5日・全員協議会
6日・十日町・松代病院問題特
別委員会
22～23日
・厚生環境常任委員会管外
視察
27日・全員協議会

〔8月〕

3日・十日町・松代病院問題特
別委員会
4日・全員協議会
11日・厚生環境常任委員会管内
視察
17日・産業建設常任委員会
20日・中越地区合同議員研修
31日・全員協議会
・信濃川・清津川対策特
別委員会

〔9月〕

2日・議会運営委員会
9日～24日
・平成22年第3回定例会
9日・本会議(諸般の報告・議
案審議)



16日・決算審査特別委員会
第1分科会
17日・産業建設常任委員会
・決算審査特別委員会
第2分科会
21日・決算審査特別委員会
第3分科会
22日・決算審査特別委員会(正
副主査会議)
24日・決算審査特別委員会(主
査報告)
・本会議(常任委員長報告、
決算審査特別委員長報
告、追加議案審議)
・全員協議会
・厚生環境常任委員会

REPORT 1
認知症の取組と
新エネ事例を視察

厚生環境常任委員会では、7月
に管外視察を行いました。

富山県小矢部市では、認知症に
ついて視察。平成19年度より国の
認知症地域支援体制構築等推進事
業のモデル地区指定を受け、千人
の認知症サポーター養成を目指し、
地域全体で認知症の方やその家族
を支えること
ができるよう
に「認知症に
なっても安心
して暮せるま
ちづくり」に
取り組んでい
ました。



高岡市では、北陸の産・官・学・
市民社会が連携し、新エネルギー
社会システムの構築を目指してい
る北陸グリーンエネルギー研究会
へ伺いました。

家庭から出る燃えるゴミに含ま
れているアルミから「究極のクリ
ーンエネルギー」とされる水素を
取り出し、それを新たなエネルギ
ーとして活用するために、住民と
の協働による新エネルギー事業の
取り組み実例や将来展望について
ご説明をいただきました。



あとがき

第3回定例会において、平成
21年度一般会計及び特別会計等
の歳入歳出決算が決算審査特別
委員会の3つの分科会での審査
の後、本会議でいずれも賛成多
数で認定されました。

審査の過程で指摘された内容
は、本議会だよりに掲載されて
いる特別委員長報告のとおりで
す。財政状況が一段と厳しい
中、市民の安全・安心な生活の
維持確保に向け、平成23年度予
算編成に生かさなければならま
せん。

8月5日より、広島市派遣団
の一員として、平和祈念式典に
参列して来ました。原爆資料館
の見学や原爆養護ホームを訪問
し、被爆者の方々から悲惨な体
験談をお聞きし、現在の何不自
由の無い生活が、多くの先人達
の皆さんの苦勞と汗と涙の犠
牲のおかげであり、平和の尊さ
を再認識しました。毎日の生活
は多くの方の協力と助け合いで
成り立っています。常に回りの
方々に感謝の気持ちを持ちたい
と思います。

限られた財源の中、全市的な
立場での新年度予算編成を望み
ます。痛みを分かち合ってもら
う事も予測されますが、不平不
満の前に一息、『おかげさま』
の心を持ちたいと思います。

(山賀子平)